

1 研究目的、研究方法など ※1頁以内で記述すること。

本研究計画調書は「令和4(2022)年度奨励研究審査区分表（公募要領27頁～28頁参照）」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領12頁参照）を参考にすること。

以下の①～③について簡明に記述すること。

- ① 本研究種目の目的（教育的・社会的意義を有する研究への助成）に留意し、どのような背景（本研究を応募するに当たり、着想に至った経緯等）、問題意識で、研究期間（1年）で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、本研究の特色と意義が分かるように研究目的、研究計画・方法を記述すること。
- ② これまでに本研究計画に関連する研究を行っている場合には、その過程や準備状況と実行可能性（研究計画の実施をサポートする研究指導者、研究協力者がいる場合はその内容等を含む）を記述すること。
- ③ 企業の職員については、商品・役務の開発・販売等を直接の目的とする研究（市場動向調査を含む。）及び業として行う受託研究との相違点についても記述すること。

研究計画調書作成に当たって留意すること

―― ※留意事項 ―――

1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・記入要領を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。

本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時には本留意事項を削除すること。

(\JSPSInstructionsなどを消す)

――

本研究の目的は、象の卵を発見して、象の卵生を証明することである。進化論的には、象は卵を産む方が自然である。

1.1 どうやって探すか

予算と時間は限られているため、確率と効率を考慮し、次のような順序で象の卵を探索する。

1. 逢坂北部のある終点駅の駅前では、毎年年末になると図1、図2に示すようにコンクリートでできた象の卵の像のまわりを電飾するしきたりが残っている。(少し寄り目にし、右目で左の図、左目で右の図を見てください。なお、このように図や表を横に並べる方が、wrapfigureを用いるより位置の調整が楽です。) まずは超音波を使い、このコンクリートの内側に化石化した象の卵が実は隠されていないか、調査する。



図 1: 右目用



図 2: 左目用

2 これまでの研究活動及びその成果 ※1頁以内で記述すること。

これまでの研究活動（大学院等での研究活動を含む）とその成果の具体的な内容について記述すること。
 なお、過去5年以内に奨励研究の交付を受けて行った研究課題がある場合には、当該研究課題の「交付年度」「課題番号」「研究課題名」「交付決定額」「研究概要（今回の応募との関連性や相違点等の記述も含む）」について記述すること。（複数課題がある場合は、それぞれ記述すること。）

—— ※留意事項 ————

1. 1頁目の留意事項の内容にも引き続き留意して作成すること。
2. 研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
3. 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。
 例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など。
4. 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。

本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時には本留意事項を削除すること。

(\PapersInstructionsなどを消す)

—————

今までは、地球上で最大の生物、シロナガスクジラの卵の研究を進めようとしてきた。クジラの卵の場合は、高い水圧に耐える必要があるため、堅固の構造となっているはずであり、これが解明されれば、将来、深海潜水艇への応用も効く。しかし、シロナガスクジラの生息範囲が広い、海に潜っている時間が長い、生息数も減っている、などの原因により、卵を見つけることができなかった。そこで、地球で最大の動物から、地上で最大の動物に研究対象を変更する。